

IPU芸術センターピアノ独習室利用状況調査報告

— 器楽演習履修者にみる主体的なピアノ自主学习調査 —

IPU Art Center piano a self-study room use report

— Instrumental music lab students in an independent piano independent learning research —

次世代教育学部こども発達学科

高崎 展好

TAKASAKI, Nobuyoshi

Department of Child Development

Faculty of Education for Future Generations

Abstract : It is essential to acquire piano skills in the nursery teacher training course, kindergarten, elementary school teacher training course. Because, in the secondary examination of nursery teacher recruitment test and teacher recruitment exam, many municipalities have practical test by piano performance or playing singing. It is an important element of comprehensive judgment related to recruitment. In order to master the piano skills necessary for taking an examination for recruitment exams, you need to take an instrumental exercise lesson and self-practice. At university facilities, it is essential that you can practice the piano at any time. Using the Piano Self Study Room at the Arts Center is a shortcut to mastering piano techniques. How do students use the environment of this privileged piano study room? Analyze the usage history data for the past three years and consider it from various viewpoints based on the piano study room use situation question paper survey result.

キーワード : 保育士, 教員養成, ピアノ, 個人練習, 学内施設

Keywords : Childminder, Teacher Education, Piano, Personal Practice, On-campus facilities

I 目的

保育士養成課程, 幼稚園, 小学校教員養成課程におけるピアノ技術の習得は必須である。なぜならば, 保育士採用試験, 教員採用試験において, 大半の自治体では, ピアノ演奏, もしくは弾き歌いによる実技試験が課せられ, 採用に関わる総合判定の重要な要素となる。また, 保育士資格, 幼稚園教諭資格取得には, 保育実習及び幼稚園教育実習において, ピアノによる弾き歌いを指導案に組み込むことが要求される。よって, 保育士, 教員養成校では, 修学期間にピアノ技術の習得が必要とされ, 器楽演習履修及び自主練習が必須となる。

本学, 保育士養成課程においては, ピアノ技術習得のため, 器楽演習 I・II 単位取得を保育・幼稚園実習の参加要件と定めている。また, 教育経営学科, 体育学科では, ピアノ学習経験のない学生を対象に器楽演

習を開講し, 小学校教員採用試験受験のため, ピアノ基礎技術及び, 唱歌の弾き歌い技術の習得を目指している。

しかし, カリキュラムの過密さや部活動, アルバイトの忙しさ等から, 学生はピアノ練習時間の確保が困難な場合が多い(表5)。ピアノ学習について, 荻田(2012)は「幼児, 児童への指導者を志す者は, ピアノ演奏の技能を習得するために十分な練習を積むことが要求される。しかしながら, 幼児・初等教育の指導者養成校である短期大学や4年制大学の教職課程に在籍する学生が卒業までに教育現場のニーズに十分に応え得る技能を身につけることは, 甚だ難しいように思われる。」(荻田, 2012)と言及している。また, 榎内ら(2011)は「短期間での習得を求められる上に, モチベーションを維持させつつ走る必要があるその道のりは, 学生自身にとって苦しいものとして感じられることも多く, 学生のみならず, その学生を指導し技

能を育成していく周りの指導者にとっても安易なものではない。」(榎内, 立本, 齋藤, 2011)と示唆している。本学をはじめとする多くの保育士, 教員養成校では, 入学時のピアノ実技レベルは問わないことから, 在籍するピアノ初心者の割合は年々増加するとともに, 入学時におけるピアノ実技レベルは様々である。この点について田崎(2008, 2011)は「現場ではピアノを使用した音楽活動に対して苦手意識をもつ保育者が多く, 現実的には保育者の発信する音・音楽はピアノ演奏能力に左右され一定の質が保障されていない傾向にある。」(田崎, 2008, 2011)と示唆している。

入学時より限られた修業年限において, ピアノ技術の習得には, 日々相応の練習の積み重ねと練習できる環境を整えることが必要である。

ピアノに関しては, いつでも練習できる環境を整えることが理想であるが, 高価なピアノの購入は, 学生にとって負担となるため, 学内施設である芸術センターピアノ独習室, またその他のピアノ設置教室を利用することがピアノ技術習得の近道である。

採用試験で使用されるピアノは, 標準鍵盤である88鍵盤のアップライトピアノ, グランドピアノ, 電子ピアノ, また, 電子オルガンや61鍵盤の小型キーボード等, 受験する自治体により様々である。

学内施設である芸術センターは, ピアノを練習できる多様な教室環境と多様なピアノの機種を完備している。50名までの講義や演習が可能な音楽室を1室, 12名までの演習が可能なグループレッスン室を4室, ひとり1室の完全個室で練習ができるピアノ独習室を12室, 学内芸術センターには, グランドピアノ1台, アップライトピアノ15台, 電子ピアノ67台, 合計83台のピアノを完備している。学内芸術センターには, 学生が空き時間等を利用して自由にピアノを練習できる環境がある。

芸術センターピアノ設置教室

①ピアノ独習室12室

アップライトピアノ11台, 電子ピアノ1台完備



芸術センターピアノ独習室 (図1)

②音楽室

グランドピアノ1台, 電子ピアノ25台



芸術センター音楽室 (図2)

③グループレッスン室A

アップライトピアノ1台, 電子ピアノ12台



芸術センターグループレッスン室A (図3)

④グループレッスン室B

アップライトピアノ1台, 電子ピアノ12台



芸術センターグループレッスン室B (図4)

⑤グループレッスン室C

アップライトピアノ1台, 電子ピアノ12台



芸術センターグループレッスン室C (図5)

⑥グループレッスン室D（兼研究室）

アップライトピアノ1台、電子ピアノ6台



芸術センターグループレッスン室D（図6）

保育士、教員を志す学生は、この恵まれたピアノ独習室環境をいかに活用し、ピアノ技術習得及び採用試験合格に向けて取り組んでいるか、過去3年間分のピアノ独習室利用履歴データ及び、ピアノ独習室利用状況質問紙調査を基に明らかにし、様々な視点から考察を行う。

考察結果から、ピアノ指導教員が現状を把握することで、ピアノ独習室を一人でも多くの学生が利用できるよう改善を図り、ピアノ技術指導研究、教材研究及び、教材開発の基となるデータ収集を目的とする。

II 方法

本研究では、過去3年間分（2018年度は11月末までのデータのため2年8ヶ月間）の芸術センターピアノ独習室利用履歴データ及び、前期、後期に開講される器楽演習、ピアノ対策講座履修者延べ377名を対象にピアノ独習室利用状況質問紙調査を実施した。

ピアノ独習室利用履歴データについては、利用時に独習室貸出表へ日付、学籍番号、学生氏名、利用する個室番号、入室時間、退室時間の記入を義務付け、学生証と鍵を交換するルールを設けている。これは、完全個室になっているピアノ練習室を練習目的以外で使用する学生等の防止及び、全ての学生が自由に気持ちよく利用できるようにするため、独習室利用ルールを遵守することを前提に鍵の管理及び、貸し出しを行っている。

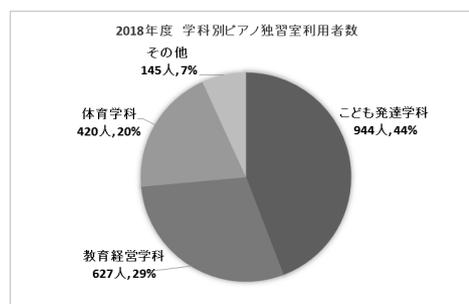
ピアノ独習室貸出表による利用状況調査期間は、2016年4月1日より2018年11月30日までの2年8ヶ月間とする。調査対象は、環太平洋大学芸術センターピアノ独習室利用学生。また、2018年度前期、後期開講の器楽演習及びピアノ対策講座受講学生へ、ピアノ独習室利用状況質問紙調査を次世代教育学部教育経営学科82人、こども発達学科254人、体育学部体育学科41人、延べ人数377人を対象に実施。質問紙調査有効回答数100%、調査結果を元に分析、考察を行う。

III 結果と考察

芸術センターピアノ独習室貸出履歴データを学科別、学科学年別、学科学年別3年間比較、学科月別3年間比較データを基に考察を行った。

1. ピアノ独習室利用履歴データ結果

2018年度学科別利用状況結果を示す（図7）。



2018年度 学科別ピアノ独習室利用者数（図7）

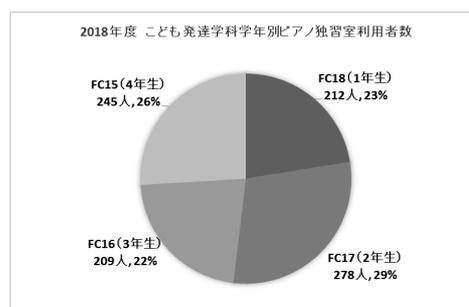
2018年度学科別ピアノ独習室利用状況は、こども発達学科44%（944人）、教育経営学科29%（627人）、体育学科20%（420人）、その他、国際教育学科、留学生7%（145人）の利用が確認できる。

こども発達学科（図7）に関しては、1年次より器楽演習Ⅰ・Ⅱ履修により保育実習、幼稚園実習のためのピアノ基礎技術習得及び、保育士採用試験に向けたピアノ対策講座のためピアノ独習室利用者が多く確認できる。

教育経営学科、体育学科に関しては、小学校教員採用試験に向けた器楽演習、採用試験ピアノ対策講座のためのピアノ独習室利用者が多く確認できる。

その他、器楽演習履修に関係なく、趣味等でピアノ独習室を7%（145人）の学生の利用が確認できる。独習室利用履歴データから、その多くは留学生であることがわかった。

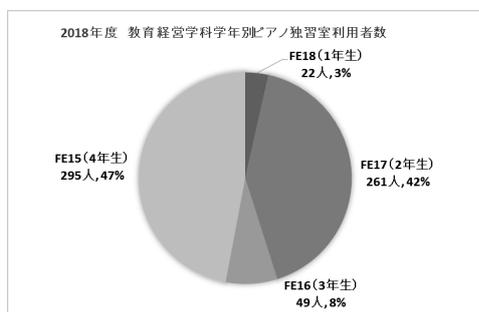
次に2018年度こども発達学科学年別ピアノ独習室利用状況結果を示す（図8）。



2018年度 こども発達学科学年別ピアノ独習室利用者数（図8）

こども発達学科（図8）に関しては、各学年で器楽演習が履修できるため、利用者はほぼ均等である。

次に2018年度教育経営学科学年別ピアノ独習室利用状況結果を示す（図9）。

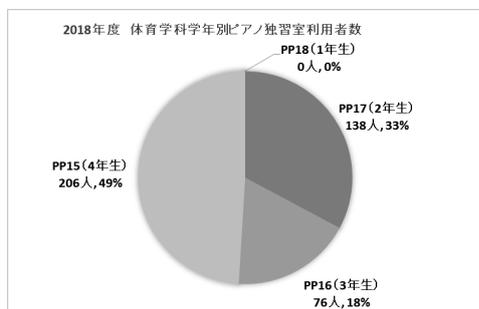


2018年度 教育経営学科学年別ピアノ独習室利用者数（図9）

教育経営学科（図9）に関しては、2年次より器楽演習Ⅰが開講されるため、1年生の利用は、ピアノ経験者による教員採用試験に向けた自主的な練習利用であるか、または、趣味で利用している学生が見られる。

4年生は、教員採用試験のためのピアノ対策講座受講生及び、その練習のために利用する学生である。

次に2018年度体育学科学年別ピアノ独習室利用状況結果を示す（図10）。



2018年度 体育学科学年別ピアノ独習室利用者数（図10）

体育学科（図10）に関しては、教育経営学科同様に2年次より器楽演習が開講されるため、1年生の利用は確認できない。小学校教員採用試験を控えた4年生の利用が半数を占めていることがわかる。

次に、学科学年別過去3年間独習室利用者比較グラフ、こども発達学科データ結果を示す。

こども発達学科（図11）に関しては、FC18（1年生）の利用者数が1/4に減少している。減少要因として4点考えられる。

1点目は、11月末データのため定期試験が実施される1月に利用者が増加することが見込まれる。

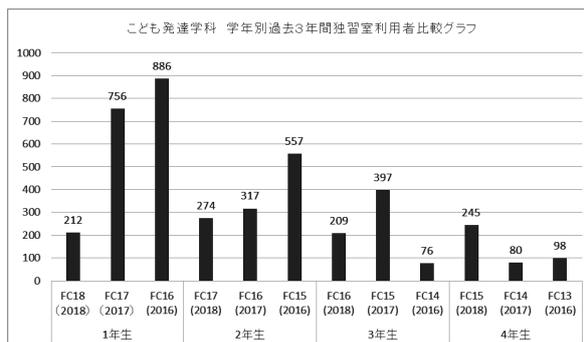
2点目は、これまで個人の実技レベルに合わせたマ

ンツーマンのピアノ指導を行ってきたが、2017年度よりグループレッスン及び本学独自の新教材を導入したことにより、授業を受けることによりピアノ奏法をある程度習得できる。

3点目は、後に示す、ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果より、ピアノ独習室を利用しない学生の理由として、自宅、または下宿先にピアノがあり利用している39%、ピアノ独習室以外の学内のピアノのある場所を利用している25%と回答。芸術センターグループレッスン室等で、学生同士でピアノを教え合いながら練習している光景も多々見受けられる。

ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果からは、部活終了後に第1体育館、パフォーマンスホールのグランドピアノを使用する学生や、講義室14など電子ピアノがある教室を利用すると回答している。

4点目は、2017年度より持運び可能な貸出用キーボードを10台導入したことも独習室の利用者減少になっていることが考えられる。



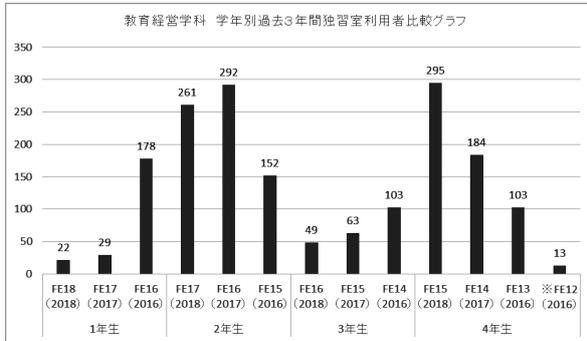
こども発達学科 学年別過去3年間独習室利用者比較グラフ（図11）

FC17（2年生）の利用者減少に関しては、新教材の導入により再履修者が大幅に減少し、ピアノ弾き歌いに関しては、器楽演習Ⅱを単位習得することで基本的な読譜力、ピアノ伴奏法の習得に至り、大半の学生が自主学習できる力が身に付いたことが考えられる。これまでは、他の保育士養成校同様、バイエル100番程度及び、こどものうた100を使用した授業を行ってきたが、応用力の習得に及ぶ学生が少なく、保育実習、採用試験等で苦勞する学生が多く見られた。新教材の導入によりピアノができないからという理由で保育士資格を諦める学生は、減少した。

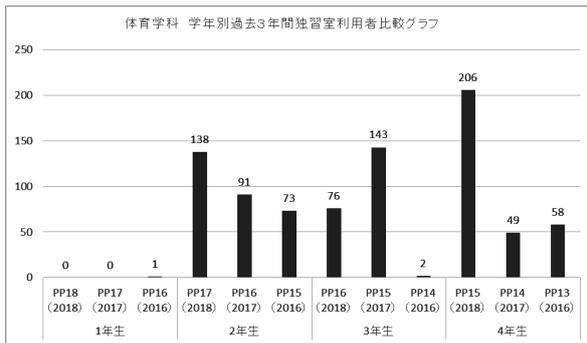
FC15（4年生）の独習室利用者数が倍以上になっている。これは公立園保育士への就職希望学生が増えていることが要因と考えられる。公立園保育士採用試験では、2次試験で大半の自治体は保育専門実技試験が課せられる。そのため、4年生は、採用試験ピアノ

対策講座受講により各自治体の傾向と対策に向けたピアノ練習が必要になるため、利用者が増えたことが考えられる。

次に、学科学年別過去3年間独習室利用者比較グラフ、教育経営学科、体育学科データ結果を示す（図12、13）。



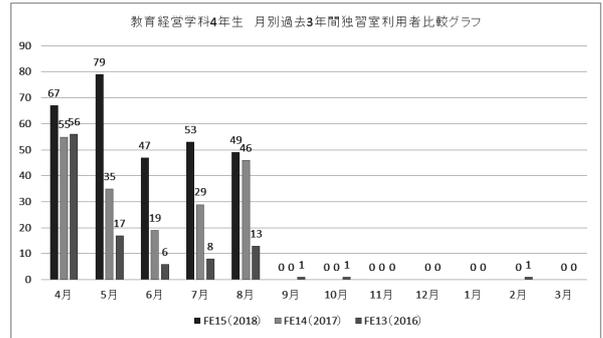
教育経営学科 学年別過去3年間独習室利用者比較グラフ（図12）



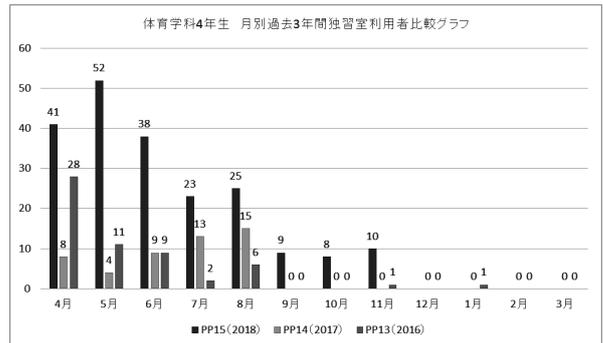
体育学科 学年別過去3年間独習室利用者比較グラフ（図13）

教育経営学科（図12）、体育学科（図13）に関しては、2018年度器楽演習を履修する2年生以上の利用が確認できる。小学校教員採用試験に向けた4年生が採用試験ピアノ対策講座及び8月に実施される教員採用試験受験のため、ピアノ独習室を多く利用している。

次に示す、教育経営学科4年生月別過去3年間独習室利用者比較グラフ（図14）、同じく、体育学科4年生（図15）から4月から8月にかけて利用者が確認できる。このグラフから、教員志望者が増加し、採用試験合格者数に比例し、ピアノ独習室利用者も増加している。



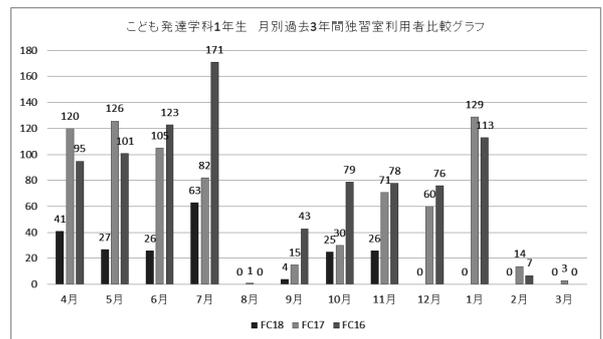
教育経営学科4年生 月別過去3年間独習室利用者比較グラフ（図14）



体育学科4年生 月別過去3年間独習室利用者比較グラフ（図15）

小学校教員採用試験2次に向けたピアノ練習は必須であることが考えられる。例年、採用試験が終了する9月以降は4年生の利用は無くなるが、体育学科に関しては、ピアノを趣味として利用する学生が見受けられる。

次に、こども発達学科1年生月別過去3年間比較グラフを示す（図16）。



こども発達学科1年生 月別過去3年間独習室利用者比較グラフ（図16）

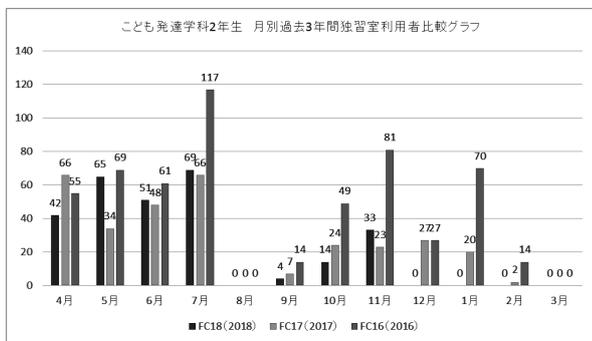
FC18（1年生）の利用者減少については、前述した通りだが、このグラフから過去3年間前期よりも後期の利用者が減少していることがわかる。

後期履修科目である器楽演習Ⅱについては、前期学修内容と比較し、課題曲及びピアノ教則本バイエルが

加わり難易度は上がっている。前期の復習を含めると自主学習時間の増加が必要になるが、例年と比較してもFC18学生の利用者は少ない。FC17学生と同じ教材、授業カリキュラムではあるが、FC18学生の学修進度、進捗状況は芳しくない。昨年度のFC17学生と比較して独習室利用者が少ないことから、予習、復習を含めた自主学習時間が少ない学生が多く、ピアノ指導教員から独習室での練習の意義を授業で絶えず伝えていく必要がある。

電子ピアノでの練習ではなく、アップライトピアノやグランドピアノといった本物のピアノに慣れ親しむ必要性を指導していかなければならない。自宅、下宿先のピアノの所有率については(表6)66.4%であるが、その多くは電子ピアノ49.4%である。電子ピアノで行う練習は、音量調整をしたり、ヘッドフォン使用したりと、ピアノ弾き歌いをするには不向きである。また本物のピアノに比べ、鍵盤の重さや、タッチ、発音の強弱にも差が生じる。電子ピアノを使用した練習では、採用試験で望まれる大きな声で歌うという練習もできなくなる。1年生後期においては、できる限り、独習室の利用を促す必要がある。

次に、こども発達学科2年生月別過去3年間独習室比較グラフ(図17)を示す。



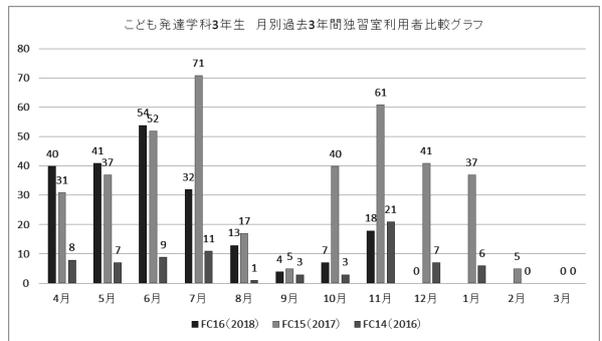
こども発達学科2年生 月別過去3年間独習室利用者比較グラフ(図17)

前期において、FC18、FC17に差異はないが、FC16に関しては、前述したように旧教材及び、再履修者が多かったため、定期試験が行われる7月、1月は利用者が多いことがわかる。

後期、利用者が減少する理由として考えられるのは、2年生は必修科目、実習科目等、履修単位を超過する学生が多く見受けられ、幼稚園実習がある3年生に器楽演習Ⅲを履修する学生が多く見られた。しかし、器楽演習を履修しない場合でも、保育実習や採用試験に向け、ピアノ独習室を継続して利用し、練習しなければならない。

ピアノ初心者の場合、ピアノ技術習得には、定期的な復習と継続することが必要であり、半期でもブランクが生じると、初心者同様のレベルになってしまうため、継続して利用するよう働きかけが必要である。

次に、こども発達学科3年生月別過去3年間独習室利用者比較グラフ(図18)を示す。



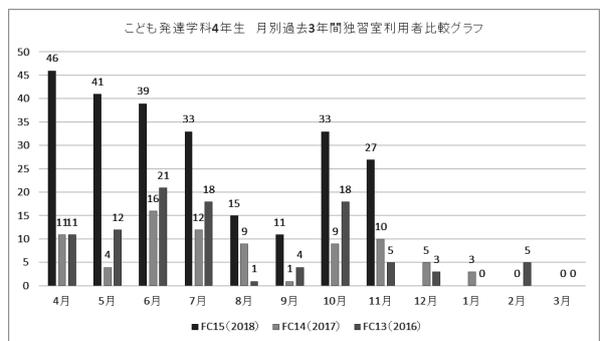
こども発達学科3年生 月別過去3年間独習室利用者比較グラフ(図18)

FC14は、保育士を志望する学生が少ない学年であったため、独習室利用率も低いことがわかる。

FC15は、公立園保育士を希望する学生が多く、独習室利用も多く定期的に見られた。3年生は後期、キャリアデザイン履修により、公立園保育士を志望する学生は、採用試験ピアノ対策講座を受講する。FC15は、志の高い学生が早期より採用試験対策に取り組み、公立園保育士採用への結果に繋がったことが独習室の利用からも推測できる。

FC16の後期の利用者数が減少しているため、公立園保育士を志望する学生へ、ピアノ弾き歌い練習の習慣づけと独習室利用を促す必要があると考える。次年度、公立園保育士採用者増加に向けて、学生への働き掛けが必要である。

次に、こども発達学科4年生月別過去3年間独習室利用者比較グラフ(図19)を示す。



こども発達学科4年生 月別過去3年間独習室利用者比較グラフ(図19)

過去3年間を比較するとFC15学生のピアノ独習室

の利用者数が過去最大数となっていることがわかる。

公立園保育士採用試験は、試験実施の早い自治体では、5月末よりエントリーが開始され、8月にピークを迎える。しかし、各都道府県自治体を多数受験する学生も多く、9月以降、2次募集のある自治体も少なくはない。採用を勝ち得るため、長期戦の学生は、翌年2月まで採用試験に挑戦する学生もいる。図19より10月以降の利用者数がそれを示していることがわかる。また、公立園保育士を志望する学生が多い学年でもあることから、例年になく、ピアノ独習室の利用者数も増加したことが確認できる。この高い数値は、公立園保育士を強く志望する学生の志の高さも窺える。

よって、ピアノ独習室の利用者数は、公立園保育士、小学校教員採用人数に比例していると考えることができる。

2. ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果

次に器楽演習及びピアノ対策講座受講学生の質問紙調査結果を示す。

有効回答数：延べ人数377人、有効回答率：100%

質問1 履修科目について

2018年度 ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果(表1)

選択肢	回答 (%)
器楽演習Ⅰ	38.1
器楽演習Ⅱ	18.5
器楽演習Ⅲ	16.7
器楽演習Ⅳ	7.4
ピアノ採用試験対策講座	20.9

有効回答数内訳は、こども発達学科254人、教育経営学科82人、体育学科41人、計377人である。器楽演習Ⅲ・Ⅳに関しては、こども発達学科開講科目である。

採用試験ピアノ対策講座受講者は、教育経営学科24人、体育学科6人、どちらも前期のみの開講。こども発達学科49人、3年生は後期、4年生は通年開講。

質問2 取得希望資格について(単位：%)

2018年度 ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果(表2)

選択肢	教育経営	体育	こども発達
保育士	-	-	80.2
幼稚園教諭	4.8	2.4	78.1
小学校教諭	97.5	92.6	22.9
中・高体育教諭	22.7	39	11.4
中・高英語教諭	18.1	0	3.1

教育経営学科、体育学科から7.2%とわずかではあるが、幼稚園教諭免許希望者がある。こども発達学科、小学校教員免許希望は22.9%である。

質問3 ピアノ独習室利用について(単位：%)

2018年度 ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果(表3)

質問事項	回答
利用したことがある→質問4へ	76.7
利用したことがない→質問5へ	25.4

過半数の学生が独習室を利用したことがあると回答している。ピアノ独習室利用履歴データと照らし合わせると、学生利用平均は週1回程度と考えることができる。

質問4 ピアノ独習室利用頻度について(単位：%)

2018年度 ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果(表4)

	30分以内	30～60分	90～120分	120分以上
週3～4回	1	1	-	-
週1～2回	1	21.4	8.1	3
週1回	17.3	39.7	4.1	2

ピアノ独習室利用頻度について、週1回30～60分利用が多く見られる。週1～2回90～120分利用している学生は練習熱心な学生である。

質問5 利用したことがない学生の理由について

2018年度 ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果(表5)

選択肢	回答 (%)
自宅または下宿先にピアノがあり利用している	39
独習室以外の学内のピアノのある場所を利用	25
授業の空き時間がない	10.9
部活動やアルバイトで利用する時間がない	17.1
練習しなくてもバイエル程度の楽譜は演奏ができる	6.2
その他	1.5

ピアノ独習室を利用したことがない学生25.4%から、ピアノ所有率39%は、例年になく高い所有率であるが、自宅または下宿先の利用頻度調査が必要である。

空き時間がない、部活動やアルバイト等で利用できない学生の練習時間の実態調査の必要もある。

質問6 自宅または、下宿先にピアノがありますか

2018年度 ピアノ独習室利用状況質問紙調査結果(表6)

選択肢	FC	FE	PP
ある(自宅・下宿先)以下、その種類	67人	13人	9人
アップライトピアノ	8人	1人	4人
グランドピアノ	2人	1人	0人
電子ピアノ	38人	4人	2人
キーボード・電子オルガン	19人	7人	3人

ピアノ所有について、他学科と比較して、こども発達学科にピアノ所有者が多いことがわかった。質問紙調査回答者結果から69.7%の学生が鍵盤楽器を所有しており、ピアノを練習する環境が整っている。その中には学生寮の共有電子ピアノも含まれていると考えられるが、生活環境にピアノがあることは、ピアノを学習する上で非常に優位なことである。

IV まとめ

本研究は、過去3年間分の芸術センターピアノ独習室利用履歴データの調査、考察結果から、器楽演習履修者により多少数値に差は生じるが、学科、学年、年代別に利用者数に差異があることが明らかとなった。

ピアノ独習室利用者が多い年代、学年は、器楽演習授業進捗、進捗状況も良く、採用試験受験者数、採用試験合格者数に比例しているのではないかと推測できる。

保育士、教員採用試験等で要求されるピアノ弾き歌い技術は、器楽演習を履修することにより効率的に学修ができるが、この技術習得には、予習、復習が欠かせない。幼少時よりピアノを習ってきた学生でさえも採用試験で要求される、ピアノを弾きながら歌うという表現は容易ではない。この予習、復習には、歌唱練習が伴う。これを自宅や寮の電子ピアノでヘッドフォンを使用する練習では、歌唱練習の妨げとなる。

ピアノ独習室では、アップライトピアノを完備しており、生のピアノ音量に合わせた、大きな声で歌唱練習が可能である。実習や採用試験合格に向けた、ピ

アノ独習室での練習は必要である。

保育士、教員を目指す学生には、学内施設利用を促し、主体的にピアノ自主学习を行う習慣を身に付けることが採用試験合格の鍵となる。器楽演習授業において、指導教員が学生に周知徹底、指導する必要がある。

V 今後の課題

本研究の調査結果から、ピアノ予習、復習の取り組み状況が明らかとなり、各学年の現状、実態を把握することで、カリキュラムの精査、検討、改善、ピアノ技術指導法、教材研究、教材開発の基となる貴重なデータ収集ができた。このデータを基に、更なる教材研究、指導法を確立し、本学器楽演習における、グループレッスン形態を完成させたいと考える。

本研究結果から、こども発達学科に関しては、ピアノ経験者、未経験者の割合は、毎年様々であることが明らかとなった。ピアノ未経験者でも安心して学習できる内容、授業の環境づくりが必要であり、ピアノを学習することで音楽表現の楽しさ、素晴らしさを体感し、保育で生かせることのできる保育者を育成していかなければならない。学生がピアノ技術習得のため、施設を有効活用できるよう、更なる調査、研究を行い、今後、ピアノ独習室を一人でも多くの学生が利用し、保育士資格、教員免許取得、採用試験突破に向けて、目標達成ができるようサポートしたいと考える。

引用参考文献

- 榎内光子, 立本千寿子, 齋藤節子 (2011), 「保育者養成校における音楽技能に関する研究 - 『学びの姿』のタイプを視点とした実態調査と指導のあり方の検討 -」, 『徳島文理大学研究紀要』 Vol.82, pp.1-9.
- 田崎教子 (2008), 「保育者に求められる「弾き歌い」の演奏レベルと教材の関連性について」, 『日米高齢者保健福祉学会誌』 Vol.3, pp.195-209.
- 田崎教子 (2011), 「保育におけるピアノ演奏に必要な専門的技術Nordoffの“HealingHeritage”の観点から見る」, 『東京福祉大学・大学院紀要』 Vol.2, pp.31-41.
- 萩田泉 (2012), 「幼児・初等教育の指導者養成におけるピアノ指導法の研究 - 初心者の学習意欲を高める教授法について -」, 『四天王寺大学紀要』 Vol.53, pp.215-232.